

## 第2回三春町文化財保存活用地域計画策定協議会会議録

- 1 日時 令和6年6月27日(木) 午前13時30分～15時00分  
 2 場所 三春交流館「まほら」小ホール  
 3 出席者

(委員)

氏名	所属・役職等	専門分野等	備考
増子 博保	三春町商工会 会長	商工	会長
佐久間 保一	三春まちづくり協会・文化財保護審議会委員	地域振興	副会長
神山 史昭	中妻まちづくり協会	地域振興	
佐久間 正幸	沢石まちづくり協会	地域振興	
大内 忠一	要田まちづくり協会	地域振興	
鈴木 政男	御木沢地区まちづくり協会	地域振興	
細川 秀夫	岩江まちづくり協会	地域振興	
田村 信也	中郷まちづくり協会	地域振興	
高橋 龍一	みはる観光協会 副会長	観光	
圓谷 彰孝	三春町歴史民俗資料館友の会 会長	歴史	
廣田 吉三郎	文化財保護審議会 副会長	考古学	
小松 賢司	文化財保護審議会委員・福島大学 人間発達文化学類 教授	歴史学	
長田 城治	歴史民俗資料館運営協議会委員・郡山女子大学家政学部生活科学科 建築デザイン専攻 准教授	建築学	
後藤 雅樹	福島県教育庁文化財課 課長	自治体	
(代理出席：福島県教育庁文化財課 佐久間浩之文化財主査)			
鳴原 健二	三春町教育委員会生涯学習課 課長	自治体	

(事務局)

氏名	所属名	職名
添田 直彦	三春町教育委員会	教育長
平田 禎文	三春町教育委員会 生涯学習課 歴史民俗資料館	総括主幹兼館長
西 宏恵	三春町教育委員会 生涯学習課 歴史民俗資料館	主査

(文化財保存活用地域計画策定業務支援事業受託業者)

氏名	所属名	職名
廣瀬 健	株式会社 プレック研究所 歴史・文化計画部	部長
森岡 里奈	株式会社 プレック研究所 歴史・文化計画部	主査

## 4 欠席者

氏名	所属・役職等	専門分野等	備考
山岸 英男	三春町和合会	文化財所有者	

## 5 配布資料

- ・第2回文化財保存活用地域計画策定協議会 【資料1】
- ・令和5年度三春町文化財フォーラム「地域の宝物」を掘り起こすー三春町文化財保存活用地域計画」  
ご意見シートに寄せられた意見一覧 【資料2】
- ・令和6年度『三春の宝物』再発見！三春町文化財保存活用地域計画連続フォーラム」実施案 【資料3】
- ・三春町文化財保存活用地域計画 目次案 【資料4】
- ・文化財保存活用地域計画 令和6年度各種調査について 【資料5】

## 6 議事の経過および要旨

### 1. 開 会

### 2. 教育長あいさつ

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。三春町教育委員会 歴史民俗資料館は、今、大変革の最中にあります。改革のコンセプトは、古く価値のあるものをより新しく魅せる、魅力を発信するということです。その内容をいくつかご紹介します。

1つ目は、デジタルミュージアム構想。三春城のAR、VRを使って、館内展示物の音声解説のリニューアルを図っています。

2つ目は、文化財の活用への視点です。昨年春に紫雲閣の改修工事が竣工しましたが、そこを使って各種の講座や芸術家紹介を開催し、様々な文化を発信すべく、企画・運営を進めています。

3つ目は、三春城の国文化財指定獲得のためのプロモーションです。町にお住まいの方々のお力をいただきながら、町の財産である三春城を国指定の文化財に、そして三春城を中心に魅力を発信していければと考えています。

4つ目は、文化財保存活用地域計画の策定です。

今申し上げた4点全ての目標は地域振興。三春町の良さをより多くの方に知っていただき、町の活性化に繋げていくものだと考えています。

この協議会は三春町の文化財を保存し、活用するための計画を策定する目的で、今年3月に発足しました。3月の会議では各地区、各分野の委員の皆様それぞれの視点から、地域計画に寄せる期待や様々な問題を提示していただきました。それらは大きく2つの意見にまとまります。

1つ目は従来の文化財という枠にとらわれず、三春町や各地区で大事に伝えられてきた地域の宝物を集め、調査して、活用していくということです。

2つ目は計画策定の段階から広く情報を公開し、より多くの町民の皆様がこの地域計画や文化財、地域の宝物のことを知っていただきたいということです。

これらを踏まえつつ、事務局では地域計画の目次案や今後の調査方針の案を取りまとめいたしました。本日はその説明がメインになりますが、委員の皆様からはご意見を頂戴したいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

### 3. 議 事

#### (1) 令和6年度の予定について

事務局より、資料1にそって説明

#### 【説明概要】

- ・令和5年度は、三春町文化財保存活用地域計画策定協議会を発足し、文化財フォーラム『地域の宝物』を掘り起こすー三春町文化財保存活用計画」を開催した。
- ・令和6年度の予定の1つ目は三春町文化財保存活用地域計画策定協議会の実施、2つ目は三春町文化財保護審議会の実施、3つ目は庁内検討会の実施、4つ目は各種調査の実施、5つ目は地域計画にかかる

課題・方針・措置の整理、6つ目は連続文化財フォーラムの実施、7つ目は国庫補助関係事務である。

#### 【質疑・意見】

(国庫補助について)

委員) どのような条件がそろえば補助を受けられるのか。

事務局) 細かい条件や規定は色々あり、地域計画を作成するからといって安易に補助を受けられるわけではない。例えば、講演会の実施にあたっては講演料の補助を受けられるが、上限が決まっている。昨年度の文化財基礎講座は対象ではないと言われ、補助を受けられなかった。もし補助金が下りなくとも作成は進めていくが、令和6年度地域文化財総合活用推進事業については既に採択されている。

(連続文化財フォーラムの名称について)

委員) 「連続文化財フォーラム」に「連続」という文言は必要なのか。

事務局) 年に3回実施するためそのようにしたが、仮案であるため、3回とも参加しないといけないという誤解を与えてしまうのであれば、「文化財フォーラム」に改める。

事務局) 文化財フォーラムは、これまで文化財保護審議会の協力を得て年に1回実施していた。今回のフォーラムは年3回行うということで、区別するために「連続」と付けたが、開催の際は名称を再検討する。

委員) 毎回のテーマが変わるということであれば、わざわざ「連続」と付けなくても良いように思う。

## (2) 計画概要・目次案について

事務局より、資料1、資料4にそって説明

#### 【説明概要】

- ・計画の内容は基本的な方針と具体的な実行計画の2つに大きく分かれる。その中で基本的に序章から第10章までの章立てがなされる。
- ・関連文化財群と文化財保存活用区域の設定は任意だが、関連する措置が必要である。

#### 【質疑・意見】

(章の順番について)

委員) 第1章、第2章、第4章をまとめて、第3章の三春町の歴史文化の特徴を把握するというのであれば、第4章と第3章が逆の方が良いのではないか。

事務局) まず第2章に三春町の文化財の概要、それを踏まえて第3章に三春町の歴史文化の特徴、その後の第4章に文化財の把握のために行った調査、という流れである。逆の順番が適当であれば修正する。

委員) 第1章、第2章、第4章が並列している図の書き方に問題がある。

委員) 図の第3章と第5章の間に第4章が入るべきではないか。

事務局) そのように図の表現を修正する。

## (3) 各種調査方針について

事務局より、資料5にそって説明

#### 【説明概要】

- ・地域計画の作成にあたり、文化財の調査を実施する。
- ・1つ目は文化財把握調査である。計画の章立てでは第2章、第4章に関わっている。既往の文化財調査資料整理、未指定文化財の調査、指定文化財保存状況調査を行い、結果は文化財リストとしてもまとめる。

- ・ 2つ目は7地区の住民を対象とした各地区説明会・懇談会である。
- ・ 3つ目は町民と文化財所有者を対象としたアンケート調査である。
- ・ 4つ目はワークショップであり、計2回の実施を考えている。

## 【質疑・意見】

(文化財リストについて)

委員) 文化財リストは、既存の「三春町埋蔵文化財地図」とは別に作るのか。

事務局) 「三春町埋蔵文化財地図」には指定等文化財のみ書かれている。地域計画の文化財リストには未指定文化財を含める。

委員) 文化財リストは配布するのか。

事務局) 配布は考えていないが、地域計画を読めば文化財リストも入っていることになる。

(地区説明会・懇談会について)

委員) 地区説明会・懇談会は、具体的にどのような形で行うのか。まちづくり協会の役員には行政の定例会に出席しなくてはならない人もいるが、地区説明会・懇談会には全員が出席している必要があるか。また、アンケートは全戸に対して行うのか。

事務局) 地区説明会については、各地区のまちづくり協会に日程調整を依頼しているが、他計画に関する集まりや、6月から7月末の役員会に合わせて実施することも考えている。まちづくり協会の役員から地区住民に広めてもらい、懇談会では文化財に興味のある多くの地元民に参加して欲しい。

(アンケートについて)

事務局) 町民アンケートの対象としては町民1000件と中学生400件の合計1400件、地区説明会で配布するアンケートの対象としては、まちづくり協会の役員を考えている。

委員) 全戸にアンケート配布し、サンプル数として1400件程度が返ってくることを期待しているのか。配布数が1400件であれば、全てが返ってくるとは限らないため、サンプル数が少なくなる。何件返ってくると想定しているのか。

事務局) 半分程度返ってくれば良い方だと想定している。ただ、1400件の紙配布の他に広報誌にQRコードを載せるなどしてのインターネットでの回答も考えている。

委員) 1400件は住民数に対してどのような根拠で割り出した数値か。

事務局) 住民数のおよそ1割である。

委員) 今の人口は1万7000人程度である。

事務局) 世帯数では5000戸程度であるので、そう考えると世帯数の3割程度に配布することになる。

委員) 世帯数は関係ないのではないか。1400件が妥当な数値か判断がつかないが、少ない気がする。

委員) 1400件のうち、中学生は真面目なため400件は大凡返ってくるのではないかと思う。町民1000件は地区ごとの人口の比率を踏まえて配布数を割り振るのか。

事務局) 地区ごとではなく町全体でランダムに配布する。

委員) その作業をコンサルタント会社に委託するのか。どのような会社か。

事務局) 配布世帯のピックアップは町の住民課で行う。アンケートの内容や集計・分析は委託する。配布数や配布方法は必要があればこの場で協議したい。

プレック) 文化財の保存・活用に関わる計画策定や設計を行っているコンサルタント会社である。今回は地域計画の作成支援に携わらせていただく。

委員) 今想定されているアンケートのサンプル数は妥当なのか。感覚的には、地区懇談会に参加する住民は多くはなく、アンケート調査の方が、色々な意見を広く聞くことができると思う。

プレック) 質問内容にもよる。未指定文化財の抽出であれば、サンプル数が少なくても問題というわけ

ではないため、一般的に有効なサンプル数まで踏まえている自治体はあまりない。ただ、自治体の考え方によるため、出来る限り多くの住民の意見を取り上げたいということであれば、配布数を増やすことも考えられる。言明はできないが、紙配布に加えて、町全体に広報誌で周知すると共にインターネット経由でも回答可能にする等すれば、広く意見をもらおうとしていると言えると思う。

委員) 文化財の話がそもそも一般の人にとって馴染みがない。ランダム抽出したところで何百人が無関心となるか。その中で有効な分析ができると思えない。まずは地域の人々にアンケートについて広報して、歴史に詳しい人を集約して聞いた方が良いのではないか。

事務局) 指摘の通り、未指定文化財、つまり三春の宝物を挙げるという意味では、ある程度興味がある方に直接アンケートを配布するのは有効だと思うが、その他に町民がそもそも文化財に対してどのような意識を持っているかという点も調査したい。

委員) アンケートで2つのことを同時にやろうとしているのが良くない。一般の方への意識調査であれば、広報を使って告知してやれば良い。専門的な、地域の高齢者しか知らないことを吸い上げようとするならば、また聞き方が変わる。その場合、一般的な文化財意識を把握するのとは違い、アンケートの質問内容が非常に難しくなる。文化財の専門家である自分も移住者であるから、新しく得た知識以外は知らない。今のやり方では無理があるため、何か方法を考えた方が良い。

委員) 町民への意向調査と文化財所有者への調査は別々に実施するのか。広く町民に対して実施するのは意向調査の方が。

事務局) そうである。文化財所有者に対しては、文化財の管理に際しての課題等を聞くことになる。

委員) 意向調査は意識や関心を調査するアンケートということだが、現在どのような質問事項を考えているのか。町民に対しては「あなたが思う地域のお宝は」というような質問はないのか。また、関心度や意識の調査結果はこの計画に最終的にどのように反映されるのか、意識が低いことに対する対策等が書かれるのか。

事務局) 町民アンケートの内容は、文化財の事例の紹介から始めて、課題等を質問することを考えていた。

委員) 課題や関心があるか質問する対象の文化財が、寺院等の指定文化財か、それとも今の食文化や生活も含めた三春町の宝や歴史・文化かによって反応が全く違うと思う。文化財と聞くとハードルが高くなって意識が低いという結果になり、それをどうするかという計画を作るしかない。そうではなく、どのようなものに関心のある人が多い、ということが分かるような調査をした方が効果的だと思う。

事務局) アンケートの前半では指定等文化財についてどう思うか、後半では身近なもので守っていきたいものがあるかというように2段構えで考えている。

委員) 三春町の文化財は「三春町埋蔵文化財地図」に集約されている。これは各地区の集会所や学校にも配布されていると思うが、果たしてこれまで文化財の説明に使われてきたか。集会所や学校に貼ってあったところで、よほど遺跡や寺に興味がある人でない限り、ほとんど興味は持たれていない。まずは埋蔵文化財地図を活用して、その上でアンケートを配布した方が良いのではないか。

委員) 指定等文化財にあまり興味を持たれていないということが明確になれば、認知度を上げるための措置が設定されるのだと思うが、それが地域計画の目的なのかと考えると違和感がある。地域計画をきっかけにより広い意味での文化財に町全体に興味を持っていこうという話が重要なのではないか。指定等文化財の認知度調査・関心度調査にどれほどの意味があるのか。

委員) この調査の目的が何なのか明確にする必要がある。

事務局) アンケートで文化財への関心が低いという結果が出てくれば、今後一般の方に知ってもらうため、講座の開講や配布物の作成等の措置を計画で設定していく。そのための基礎的な調査になると考えている。

委員) 文化財への認知度が低いというエビデンスが欲しいがためにアンケートを実施するという意味か。

事務局) 当初からそれを目的としているわけではないが、そのような結果が出れば、認知度向上に向けて行うべき取組みの方向性を把握できる。

委員) 現時点で文化財への関心が低いという前提であるならば、アンケートに説明資料をつけて調査内容をPRするという視点も追加してはどうか。そうすれば今後関心は高まっていく。よりPRの効果を上げるためには、1400件だけではなく全戸配布した方が良い。大学の研究室のイベントですら全戸配布できるのだから、難しくはないと思う。

委員) 全戸配布できると思うが、どうか。

事務局) 配布するのは簡単だが、回収方法を検討させて欲しい。

委員) まちづくり協議会の役員会で説明会を開き、ここでもアンケートを配布するという話だったが、中郷地区では、先程廣田委員が示した埋蔵文化財地図を区長に見てもらい、それ以外に何か文化財があるかを聞くということになると思う。また、回収の仕方は考えなくてはならないかもしれないが、埋蔵文化財地図や町民アンケートを地区内に全戸配布することも可能である。

委員) 全戸配布したら良いと思ったのはアンケートについて広報するためのビジュアル的な説明資料のことであって、回答はQRコードからでも良いし、地区ごとに配布する紙媒体のアンケートからでも良い。

委員) 事務局は方法を検討して欲しい。

事務局) アンケートの説明資料を全戸配布することはできるため、そこにQRコードを入れるようにしたい。紙媒体のアンケートの配布・回収については、各地区に相談して進めていきたい。

委員) アンケートの目的は関心度調査で、措置のエビデンスにするという話だが、それだけでなく、歴史講座に来ないような一般の町民がどのような三春町の文化財や歴史文化の特徴に関心があるのかを把握し、「第3章 歴史文化の特徴」等に活かすための質問項目も考えて欲しい。

委員) 三春町の歴史文化に関わるストーリーの例などがあって、どこに興味があるか選択するような質問があれば良い。その選択肢から初めて知る三春町の特徴もあるかもしれない。アンケート案を早く見て内容を協議したい。

委員) 委員からの意見を参照しながら検討を進めて欲しい。

(スケジュールについて)

委員) 令和6年度のスケジュールの進み具合について説明して欲しい。

事務局) 既往文化財調査資料の整理や上位・関連計画等の整理を7月くらいまでにできればと思っている。この他、町でこれまで行ってきた保存・活用事業を取りまとめ、ここに何を措置として加えていけるかを検討していく。さらに夏から冬にかけてアンケートやワークショップを行い、次回協議会である程度結果を説明したいと思っていたが、今日の協議会でアンケートの日程を後ろにずらすことも考えられるかと思う。ワークショップの時期も、夏の暑い盛りにやるのは不適切とも思うため検討したい。緑色は計画の内容検討に関わる部分である。

委員) 7月からアンケートをするのであれば、もう出来ているはずではないか。

事務局) 7月から検討するという意味で記載している。

委員) 本当はアンケートの内容を一度協議する必要があった。次回協議会では、例えば田村氏、山の景観、桜、というようなキーワードから歴史文化の特徴を協議することになると思うが、6つくらいの特徴をアンケートに載せ、どれに興味があるか聞く質問項目がある方が良いと思う。そう考えると、アンケート調査は12月までに終わらせるのではなく、もっと後で実施しても良いのではないか。

委員) アンケート案ができたら委員全員でなくとも先生方からの助言はいただくように。

事務局) 急ぎアンケート案を作成して委員に確認いただき、その結果を受けて実施するようにする。

委員) 歴史文化の特徴まで既に書ける状態なのか。

事務局) 三春のテーマになる物事はある程度限られてくると思うため、事務局で選択肢を考え、それに加えて自由記述で他にあるか問う形になると思う。

#### (4) その他

(若い世代からの意見の吸い上げについて)

事務局) 若い世代の意見の吸い上げについて、何かアイデアがあればご教示いただきたい。

委員) 田村高等学校に魅力向上委員会があり、滝桜の PR 等をしている。三春町について色々と調べていると思うため、関わりを持って良いかと思う。

委員) 若い世代というよりも、地域の伝統文化の継承者の意見を聞くという視点が必要で、そのためにはイベントやアンケート等を利用して、直接接触して聞き取りするのが有効かと思う。

委員) 各地区の保存会や若連の中には活動休止中の団体等もある。まちづくり協会とも連携して、現役で盆踊りやお籠り行事を担っている方々から意見を聴取する方法を考えて欲しい。

委員) 以前、文化財フォーラムで民俗芸能の回があり、後継者不足を主な課題として色々な話を聞き勉強になったが、それに近いような機会があると良い。町場を除いて、地域には核となる神社はあるが、自分にとって祭りは「三春の里 夏祭り」くらいしか記憶にない。

委員) 大学生と日頃から関わりのある小松委員、長田委員から何かないか。

委員) 直接聞くよりも、Google フォーム等のアンケートが一番真剣に赤裸々に考えを伝えてくれると思う。対面では期待される答えを考えて話してしまう。

委員) 意見を持つためにはかけがえのない経験が必要だが、今の学生はコロナで地方に行って何かする体験に恵まれなかったことが、考え方にも如実に表れているように思う。三春町は外部の人も受け入れてくれる、良い経験が積めるフィールドであるため、色々やらせてもらっている。若い人はアンケートの方が、その向こうにいる相手の気持ちを汲めないこともあるが、正直に真摯な思いを書いてくれると思う。

(今後の進め方について)

委員) 本協議会は現時点では事務局からの報告会でしかなく、協議する場になっていないと感じる。目次案についてのみ説明されても意見は出せない。歴史文化の特徴がすぐには書けるのであれば提示して欲しい。多忙な委員が集まるのだから、揉める議題を出さないと、議論せずに解散するのであれば意義がない。アンケートについても、今回概要だけ聞いて次回協議会で結果報告されては、何か意見があっても後からでは言えない。会議の認識を変えてもらいたい。作業量は膨大だと思うが、せっかくやるのであれば、早めに提示して意見をもらって欲しい。

また、通常の会議とは違いゴールが決まっているものであるため、次回の日程だけでなく議題を明示して欲しい。そうすれば次回までに委員が下調べすべきことも考えられる。一步一步進んでいける会議にして欲しい。三春町が好きだからこそ苦言を呈させてもらった。

委員) 次回はそのような形で進めて欲しい。

事務局) 事務局の作業がスケジュールより 1～2ヶ月遅れてしまっている。準備ができておらず申し訳なかった。次回協議会はアンケートの内容を確認してもらい、その次はアンケートやワークショップの報告をしたいと考えている。

## 4. 閉会